

2012年7月11日

日本空港ビルディング株式会社

羽田空港国内線 第2旅客ターミナル 3階 ディスカバリーミュージアム 第8回企画展について

日本空港ビルディング株式会社は、第2旅客ターミナル本館南側3階の国内空港初空港内美術館「ディスカバリーミュージアム」において、7月25日（水）より第8回企画展「武将の美学 威厳の極致」を開催いたします。

乱世と呼ばれる時代における武将は戦に出る時、絢爛な衣装や装身具を身に着け、“美”をもって、臣下に対してカリスマ性や威厳を表していました。また戦乱が終わり太平の世の時代においても、江戸城への登城や大名間の社交場などでは、細部にわたる“美”を自身に施し、武将としての格式を示していました。展示作品から感じる武将たちの美学を通じて、時代の変遷と武将たちの感性をディスカバリー（発見）していただけます。

記

1. 次回企画展 「武将の美学 威厳の極致」（入場無料）

2. 期 間 2012年7月25日(水)～2012年10月8日(月・祝)（期間中無休）

※期間中、毎週水曜日（14:00～、16:00～）にギャラリートークを実施予定

3. ディスカバリーミュージアム概要

(1) 場 所 第2旅客ターミナル3階 南端

(2) 開館時間 平日 11:00～18:30（最終入場18:00）

土日祝祭日 10:00～18:30（最終入場18:00）

(3) 電話番号 03-6428-8735

(4) ホームページ <http://www.discovery-museum.com>

※すべての展示作品は永青文庫の所蔵です。

※永青文庫・・・700年の歴史を持つ細川家の至宝を管理し、国宝8点、重要文化財31点をふくむ、およそ6,000点の美術工芸品と50,000点以上にのぼる歴史文書を所蔵している美術館。



以上

【 本件に関するお問い合わせ先 】

日本空港ビルディング株式会社 事業開発・運営本部 施設管理部 広告・イベント課
電話 (03) 5757-8520 (9:00～17:30) ※土日祝日除く

【主要作品】



やまどりずたてえっちゅうずなりかぶと
山鳥頭立越中頭形兜

頭部に山鳥の尾羽を装飾することで、軽量かつ華やかな兜が実現した。山鳥の尾羽について「果敢な働きにより尾羽が折れることは、更に見事な働きをした証明だ」と細川忠興(三斎。肥後細川家2代当主)が言ったと伝えられる。



はなぐるまもんようまきえくら
花車文様蒔絵鞍

御所車は源氏物語を象徴し、雅な平安文化への憧れが込められた文様であった。その御所車に、四季の花々を組み合わせた文様を配したのが花車文様。梅や椿、菊など四季折々の花が咲き誇る絢爛豪華な蒔絵鞍である。



つば
鐙

鐙は相手の刀を受けるために刀身の根元に付けられた防具であったが、太平の世になると様々な装飾によって、刀に対する自分のこだわりを表現するアイテムになっていった。名匠の技巧を凝らした名品の数々である。



めぬき
目貫

目貫は刀身が柄から抜け落ちるのを防ぐものであった。やがて目釘を覆う金具となって装飾化し、飾り金具として専門工により作られた。金銀のほか動植物・人物などを巧みに意匠化し、小空間にいろいろな文様を表現した。



くろろいろぬりうちがたなこしらえ
黒呂色塗打刀拵

鞘は呂色と言う艶出し加工により鏡のような光沢を放ち、三所物には細川桜と呼ばれる桜紋が用いられている。黒を基調としたシンプルな造りの中に小さな金工細工の紋を効果的にあしらった緊張感のある拵である。



もりひさ
緋ピロード陣羽織 細川護 久所用

陣羽織は陣中で具足の上に着用した衣服であり、室町時代末期に始まり桃山時代から江戸時代初期にかけて当世具足とともに流行した。緋色のピロードをふんだんに使い襟の折り返しに刺繍を施すなど、華やかで品のある造りになっている。